

乳がん検診について

放射線室



問い合わせ
岩美病院 事務局
☎73-1421

最近、報道などで芸能人の乳がん闘病を目にされた方も多いのではないのでしょうか。
日本人の乳がん患者は年々増加傾向にあると言われています。
早期に発見し、治療するためにも、乳がん検診を受けることが大切です。
マンモグラフィー検査は、だいたい2年に1度受けることが推奨されています。
岩美町の乳がん検診案内も2年間隔で届けられます。(詳しくは岩美町役場健康長寿課までお問い合わせください。)

自己触診とは、自分で乳房を観察したり触ったりして、変化がないか見ていくものです。
毎月1回のペースで行います。
生理のある人は、乳腺の張りが少ない生理後数日以内に、閉経後の人は、毎月〇日と決めてやることをおすすめします。(これは目安なので、この日を過ぎたらできないということではありません。忘れてしまうことがあっても、思い出せた時にやりましょう。)

自己触診は、しこりの区別や乳がんかどうかの判別などをする必要はありません。
目的は、いつもと違う状態になった時に、その変化に気付くことです。
最初に触ったときは良くわからないかもしれませんが、毎月触ることで普段の自分の乳房の状態がわかるようになり、しこりなどができてきた場合に気付きやすくなります。
それ以外にも、皮膚に出来たえくぼやひきつれ、乳頭から分泌液が出るなどがあれば気付きやすくなります。
このような普段と違う状態や、少しでも違和感があるときは、次の検診を待たずに医療機関を受診して、病気なのかどうか確かめましょう。

病気でないとわかれば安心できますし、病気があったとしても、早期発見、早期治療が一番です。

マンモグラフィー検査では、触っただけではわからない小さながんも発見できることがありますので、自己触診だけで満足せず、2年に1度の乳がん検診も必ず受けましょう。

マンモグラフィー検査も、以前の状態と変化がないかどうか診断に関わってきます。

前回の写真と比較することで診断の精度が上がりますので、検診を継続して受けることが大切です。

岩美病院では、今年度から女性診療放射線技師がマンモグラフィー撮影を担当しています。些細な疑問でも、お気軽にお尋ねください。

(女性技師が不在の際は、男性技師が撮影する場合もございますので、ご了承ください。)

視診 視診は、鏡が必要ですが、場所はどこでも構いません。触診と別の日にやっても構いません。

●入浴後、鏡にむかって。



①鏡の前で自然な状態で立ち、両方の乳房を観察する。
②両手を上げたり下げたりして、正面・側面・斜めから乳房を観察して調べる。

チェックポイント

- 左右の乳房の形に変化はないか。
- 皮膚にえくぼやひきつれはないか。
- 発赤・浮腫・ただれはないか。
- 乳頭から異常な分泌液(血液・漿液性)は出ていないか。

触診1

●入浴時に座った姿勢で。



①指を揃えて平手の指の腹で、静かに軽く抑えながら、1巡目は、軽いタッチで表面を、2巡目は、少し力強く深いところを確認する。

チェックポイント

- 乳房のしこりの有無をしらべる。

触診2

●ベッドやふとんで、おおむけに寝て。



① 乳房の内側半分を調べる
●うでを頭の後ろに上げ、指の腹でまんべんなく。



② 乳房の外側半分を調べる
●うでを自然の位置に下げ、指の腹でまんべんなく。



③ わきの下(リンパ節腫脹の有無)を調べる
●しこりがないかどうか左右のわきの下を調べる。



④ 乳頭を調べる
●乳頭を軽くつまんで、血のような異常な液が出ないかを見る。